

追い風、
向かい風

SPECIAL INTERVIEW

俳句を大いに

「利用」していただきたい!

夏井いつき

ITSUKI NATSUI

俳人

学校を率いる 校長先生の影響力は偉大

自分が生徒だったころを振り返ると、いろいろな先生の顔が思い浮かびますが、中学校時代の破天荒な先生のことは特に印象に残っています。その先生は後に校長先生になられ、校内暴力が社会現象と化していた時期に、荒れた中学校に赴任なさいました。赴任当日に自分の車の窓ガラスが割られた校長先生は、PTA総会で「私は器物損壊という罪を犯した生徒の擁護は一切しません。躊躇なく警察に突き出します!」と言い放ったそうです。そして、眉毛を剃ったり、制服の裾を引きずる生徒たちが後を絶たない状況に「校則を変える!全員眉毛は剃ること!制服の裾は好きなだけ長くすること!」と言ったそう(笑)。こうした荒療治が功を奏し、学校が徐々に良くなっていったということ、その校長先生から後日談としてお聞きしたんです。私は感心しながらも、(あの悪名高い学校が本当に変わったんやろか?)と半信半疑でした。

その後、句会ライブ(多数の参加者で俳句を作り、評価し合うイベント)の依頼をいただき、その学校にお邪魔すると、教員も生徒たちも実に生き生きとしていて、素晴らしい学校に様変わりしていたんです。そのときに、学校全体を率いる校長先生のやる気が教員のやる気につながり、ひいては生徒のやる気につながるのだと確信しました。私も8年間ではありますが教員生活を送っていたので、校長先生のご苦勞を少しは理解しているつもりです。この場を借りて、私はすべての校長先生に心からのエールを送ります!

クラスの雰囲気に合わせて 授業の仕方を変えていた教員時代

京都の大学に通っていた私が愛媛で国語の教員を目指したのは、愛媛に帰りたかったのと、漠然と言葉に携わる仕事

夏井・いつき | なつい・いつき |

昭和32年生まれ。松山市在住。8年間の中学校国語教諭の後、俳人へ転身。帝塚山学院大学リベラル・アーツ学部客員教授。「第8回俳壇賞」受賞。俳句集団「いつき組」組長。創作活動に加え、俳句の授業「句会ライブ」「俳句甲子園」の創設にも携わるなど幅広く活動中。TBS系「プレバト!!」俳句コーナー出演などテレビ・ラジオでも活躍。松山市公式俳句投稿サイト「俳句ポスト365」、朝日新聞四国俳壇、愛媛新聞日曜版小学生俳句欄等、各選者。2015年より初代俳都松山大使。2018年第44回放送文化基金賞(個人)、2019年テレビ愛媛賞、2021年第72回日本放送協会放送文化賞、第4回種田山頭火賞受賞。著書多数。

に就きたいと思っていたから(笑)。志もないまま、中学校に教育実習に行ったところ、私の好きなように授業をさせてくださったんです。教育実習で「中学生って面白い!」「教材研究って興味深い!」と目覚め、これは私の天職だと思いました。

与えられた教材で定められた目標を達成することは全教科に求められることですが、国語は目標達成までのアプローチが割と自由だと思うんです。お料理に例えるなら、材料もメニューも決められているけれど、「どう作るか」は作り手次第というのでしょうか。食べる側の嗜好(クラスごとの雰囲気)に合うように、調理(授業)の仕方を変えられるのが、国語の授業の面白いところ。「食感を残して仕上げたら(生徒自らが咀嚼するような授業をしたら)、完食してくれた(理解を深めてくれた)」とか「よく煮込んだら(じっくり解説したら)、喜んで食べてくれた(授業に集中してくれた)」といった具合です。こう話すと「大変な努力ですね」と言われるのですが、私にとっては努力ではなく「楽しみ」でした。

親の介護などがあり教員を辞したのですが、本当は辞めたくなかったんです。なので、自分を納得させるために「俳人になる」と宣言しました。俳句は好きだったし、こっそり作ったりはしていたけれど、志や野心のようなものは皆無でした。今の私があるのは、図らずも俳句の都である松山市に転居し、そこで大勢の方々に支えられながら俳句の世界に誘われ、俳人になる潮目ができたからというしかありません。

生徒の新たな魅力を発見できる 句会ライブのススメ

本来は少人数で行う句会を、大人数(20人~1000人単

位)でも楽しめるよう工夫したものが「句会ライブ」です。これまで約30年にわたり、全国の学校や福祉施設などで句会ライブを開催してきました。基本的な内容は、講師が俳句の作り方をレクチャーし、参加者が5分間で俳句を作り、それを運営サイドで回収して休憩をはさみます。その間に秀句を5~10句ほど選び出し、それを大きなスクリーンに映して、参加者全員で議論を重ね1位を決めるという流れです。作者名は伏せているので誰も何も忖度しません(笑)。作者と作品とを切り離すことで、平等性が保たれ、ゲーム性も生まれるわけです。最後に1位を含め決勝に残った作品の作者を発表するのですが、面白いことに決勝に残った作品の半分以上が、普通の学校生活では目立たない子の作品なんです。すると、参加者たちは互いに貼り合っていたレッテルに気がきます。「あの子はおとなしいと思っていたけれど、面白い一面もあるんだな」とか「あの子とは仲良くないけれど、共感ポイントが一緒だな」とか。私はこれを「人間関係の認識の塗り替え」と呼んでいます。句会ライブの詳しいやり方は『俳句の授業ができる本』(三省堂)にも書いていますので、機会があれば皆さんの学校でも句会ライブを開催し、生徒の新たな魅力の発見に役立てただけだと、私はとてもうれしいです。

心のつぶやきを 「俳句のタネ」に

学校現場では俳句を大いに「利用」してください。生活ノートや日記帳に子どもが記す心のつぶやきの中に七・五または五・七の音を見つけ、そこに赤線を引いて「俳句のタネ!」と書くだけで十分です。俳句のタネに子どもの本音が隠れてい



ある小学校での句会ライブの様子。「初対面の子どもの雰囲気を見て、臨機応変に対応できるのは、教員経験のおかげ」と夏井さん。現在は夏井さんのご子息、家藤正人さんが学校での句会ライブを担当している。

ることもあるので、子どもとの信頼関係の構築にも役立ちますよ。子どもが俳句を作ったときも、リアリティやオリジナリティをぜひ評価してあげてください。よく添削の方法を聞かれるのですが、大人が手を入れて改作することで、せっかくの俳句をつまらなくすることがほとんどです。子どもの心のつぶやきに触れることのできるツールとして、俳句を活用していただければと思います。

そして、もし読者の皆さまご自身が俳句を始めてみたいと思ったら、まずはTBS系『プレバト!!』をご覧ください。俳句のルールや小さなノウハウがぎゅっと詰まっていますので。



夏井いつきさん
とっておきの手土産をプレゼント!

プレゼントクイズ(P33)正解者の中から抽選で8名様に、読者の投句を例に、初心者が俳句のイロハを学べる『夏井いつきの「今日から一句」』(第三文明社)と夏井さん愛用の筆ペンをプレゼント。ふるってご応募ください!

わたしの『ダイスキ!』



「日本国語大辞典(小学館)」

全巻を事務所に1セット、自宅に1セット持っています。古いほうは、社会人になって初めてのボーナスで購入したものです。自分のお金で全巻そろえたことがとてもうれしくて、そのときの高揚感は今でもよく覚えています。知らない言葉に出会ったとき、今の人たちはインターネットで意味を調べるのでしょけれど、私が信じられるのはやっぱり日本国語大辞典。ネットの情報が間違っていることも実際にありますから、絶対に手放せません(笑)。